

施策番号 1-1-3	施策名 農地・土地改良施設等の整備・充実	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり		
		政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化		
	主管課	農林課	課長名	佐々木快治	内線 410
	施策関係課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果
国・北海道への事業予算確保を要望し、計画的な土地基盤整備をすすめ安定的な農業生産を支援します。		農地・土地改良施設・農業用水施設・農業経営体		・土地基盤の計画的整備が図られる ・土地改良施設・農業用水施設の整備と適正な維持管理が図られる			基盤産業である農業の生産基盤となる、農地・土地改良施設・農業用水施設を整備・管理することで、農業経営の安定化と農業産出額の維持・向上を図る
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 土地改良事業整備済み面積	土地改良事業一覧表による面積	ha	19,061	20,131	20,517	20,588	
② 良好に管理されている明渠施設の延長	農林課調べ	km	226.0	233.5	233.5	233.0	
③ 利用できる農業用水施設の延長	農林課調べ	km	430.0	430.5	430.5	432.0	
④							
成果指標設定の考え方	①土地基盤整備の成果指標として、今後の道営事業の計画に基づき設定したもの。 ②適正な維持管理により現状の明渠施設を継続利用できることを指標とした。 ③事業計画に基づき設定。適正な管理により利用できる延長を維持する考え方。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	688,145	618,243
人工数(業務量)	5.1252	5.5430

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	いずれの成果指標も拡大・改善が図られており、計画的な整備や管理を行うことができていることが要因と考える。
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	道営土地改良事業等を引き続き計画的に実施することで、整備済み面積を増加させる等、目標の達成は期待できるものとする。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	道営土地改良事業 農業用水施設維持管理事業 土地改良施設維持管理事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・道営土地改良事業等の事業については、補正予算の活用も含め、計画的に実施できている。 ・農業用水施設の維持についても、ダム・ファームポンド・用水路等の適正な維持管理を実施できている。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	過去に整備した地区において、管路や設備等の老朽化に伴う修繕・更新の要望が増えており、今後もこの状況は続くものと思われる。また、美生ダムにおける小水力発電施設の整備については空き容量不足の課題があり、今後も北電を始めとする関係機関の動きを注視していく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<p>取組① 農業基盤整備の推進 土地改良事業については、実施地区数の増や長期化する事業期間の課題を解決しながら、今後も国の予算状況などを勘案しながら推進していく。</p> <p>取組② 国営芽室川西地区の推進 川西地区への導水路整備、美生ダムの機器更新や小水力発電設備の整備等を進めてきたところであるが、空き容量不足による売電計画の見直しが迫られており、計画変更を含めた議論を国や関係自治体と進めていく。</p>

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	すべての成果指標において数値が向上していることから、策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	小水力発電の早期実現など、コスト削減策についても検討する必要がある。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	すべての成果指標において数値が向上していることを踏まえ、策定時と比較して大きく前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果		○		
今後の取組に対する意見	計画どおり進めてもらいたい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				